



有家中だより

No 1 0

令和7年 3月11日

南島原市立有家中学校

校長 本多 洋二

よく頑張りました！全員合格！！

3月5日（水）に公立高校の一般入試の合格発表がありました。本校生徒は、見事全員合格でした。以前行われた、特別入試や私立高校の入試も含め、3年生46名全員の進路先が確定しました。本当によく頑張りました。翌日、登校してきた3年生は、晴れやかな表情で印象的でした。

<高校生に学ぶ！>

3月4日（火）有家中学校の卒業生6名が学校に来てくれ、高校生に学ぶと題して、進路学習会を行いました。進学や就職先が決定した高校生が、全校生徒に対して、どんな高校なのか、高校卒業後は、どんな進路先があるか、効率的な勉強方法や人間関係をうまくいくための方法など、自分の体験を基に話してくれました。



感動の卒業式！

本日46名の生徒たちが巣立っていきました。感動的な式でした。式の中で坂村真民の詩を送りました。

「念すれば花開く」

苦しいとき、母がいつも口にしていたこの言葉を、私もいつの頃からか唱えるようになった。その度、私の花が不思議にひとつひとつ開いていった。」念という字は、今と心が合わさってできていきます。苦しいときほど、一心に努力すれば道は開くと言う意味です。卒業生の未来に幸多からんことを祈っています。

別れの言葉

（前略）まだまだ新型コロナウイルスの影響が残る中、中学校という新しい環境に大きな不安と緊張を抱きながら、私たちは有家中学校に入学しました。（中略）

上級生としての自覚が芽生え、責任を持って行動するように心がけた二年生。（中略）

仲間と過ごす何気ない日常が愛おしく感じられた三年生。中学校最後の体育大会では、私たちは、自分達の姿で後輩を引っ張らなければならないんだと思い直し、仲間と意見交換をしながら、たくさん練習しました。支えてくれた先生方や、全校生徒の協力のおかげで、団結が生まれ、最高の体育大会にすることができました。（中略）

そして、季節はあっという間に過ぎ、最後の行事となった合唱コンクール。46人の思いをのせて歌った「群青」は、多くの方に感動を与えられたのではないかと思います。

私たちにとって、この一年間は、人生で初めて進路選択という大きな壁と向き合ってきた一年間でもありました。思い通りに行かない焦りや、不安に駆られることもありましたが、仲間と励まし合って、過ごしてきました。（中略）

いよいよ別れの時が近づいてきました。いつもそばで寄り添ってくださった先生方。私たちが、進路や人間関係で悩んでいる時親身になって相談にのってくださいました。先生方の温かい言葉に何度も救われました。

一番身近なところで支えてくれた家族のみんな。テストや学校行事など、私が緊張している日には「頑張って」や「自分を信じて」という力強い言葉をかけて、背中を押してくれました。難しい年頃で、素直になれず、冷たい態度をとってしまうこともありましたが、それでも、突き放さずに、最後まで話を聞いてくれました。（裏面へ）

どんな時でも、私たちのことを第一に考え、ここまで育ててきてくれたこと。ずっと言えませんでした。本当にありがとう。そして、これからもたくさん成長していく私たちの姿を、一番近くで見てください。(後略) 卒業生代表 石橋茉莉

<令和7年度の行事予定>

令和7年度の1学期の行事予定をお知らせします。現段階での予定ですので、変更の可能性もありますことをご承知おきください。年度初めに再度お知らせします。下線部分は確定で変更はありません。

<4月>

- 7日(月) 着任式・始業式(給食あり)
- 8日(火) 入学式
- 9日(水) 身体測定
- 11日(金) 歓迎遠足・部活動紹介
- 14日(月) 全国学力学習状況調査(理科)
学級委員任命式
- 17日(木) 2・3年学級役員選出会(夜)
PTA 専門部会(夜)
- 17日(木) 全国学力学習状況調査(3年)
県学力調査(2年)
- 18日(金) 県学力調査(3年英語)

<5月>

- 2日(金) 授業参観・PTA 総会
- 18日(日) 体育大会
- 19日(月) 振替休日
- 26日(月) 27日(火) 実力テスト(3年)
- 30日(金) 生徒総会

<6月>

- 7日(土)・8日(日) 市総体球技、武道大会
- 18日(水) 市中総体陸上大会
- 30日~5日 有家っ子の心を見つめる
教育週間

<7月>

- 1日(火)~2日(水) 職場体験学習
(2年)
- 4日(金) 道徳授業参観・学年学級PTA
- 17日(木) 大掃除
- 18日(金) 1学期終業式
- 19日~夏季休業

ブレイクコーナー

自分の考えや人の考えの受け売りです。気軽にお読みください

『親から子へ~誤った声かけ~』

お子さんが、テストで90点を取って帰ってきました。こんな時、どのような声かけをしますか。

「頑張ったね。もうちょっとで100点だったね」
もし、このような「励まし」がお子さんの自己肯定感を下げると言ったら、驚かれるでしょうか。ではどこが悪いのでしょうか。この声かけの問題点は、「もうちょっとで」という部分。正解した90点の部分ではなく、できなかった「10点の部分」に注目しています。

これはテストに限った事ではなく、日常生活においても、子どもたちは「できないこと」ばかり指摘され続けています。「片付けなさい!」「早くしなさい!」「宿題しなさい!」言い出したらきりがありません。

自己肯定感とは、自分は大切に価値ある存在だと、自分を自分で認めて自信がある状態です。自己肯定感が高い人は何事にも前向きにチャレンジしていけるのに対し、自己肯定感の低い人は「どうせうまくいかない」とマイナス思考で行動を起こすことができません。

自己肯定感を育むには絶対評価が必要です。なぜなら、他者とは関係なく「自分が日々成長している」と知ることで自分を認めることができるからです。

できない部分、自分がダメな部分ばかり大人から指摘されると子どもは「ダメな部分」に注目するようになります。自分の欠点ばかりに目がいくようになるのです。

大切なのは、大人が子どもの「できたこと」に目を向けるように意識をすることです。

90点のテストを持って帰ってきたら、「すごいね! 勉強を頑張っていたもんね」と結果ではなく「プロセス」を褒めてみる。たとえ点数が悪かったとしても、点数ではなく他のいいところがないか探してみる。字を丁寧に書いているとか、一生懸命に計算した跡があるとか「できたこと」に注目して伝える。そうすることで、子どもはプラス思考に変わっていきます。